

札幌市議団ニュース

2012年11月1日 No.68

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

第3回定例議会 決算特別委員会・論戦特集 (9)

=宮川 潤議員

北1西1の多目的ホールには プロデューサー・芸術監督の配置は不可欠

札幌コンサートホールKitaraにはホール付きのプロデューサーがいます。ですから、自主的に何時、どういいう上演をするか、Kitara 自らが企画立案をできます。プロデューサー・芸術監督を、北1西1再開発ビルの多目的ホールで採用しないとすれば、このホールは区民センター同じ、貸館だけのホールになってしまいます。

宮川議員は「有能なプロデューサー、あるいは芸術監督を配置することが自主事業を行ううえで、決定的に重要だと思うが、配置する考えはあるか」と質しました。

杉本文化部長は「他都市においてもプロデューサー・芸術監督を置いてオペラ等の自主制作に積極的にとりくんでいるホールが沢山あり、一定の成果を上げている。今後、ホールの本格的な運営を検討していくなかで、プロデューサー・芸術監督の設置についても検討していきたい」と答弁しました。

宮川議員は最後に「貸室事業だけであれば、ホールが何をやるかは興行主次第となり、上演されるのは、興業として成り立つもの、人気があつて客が呼べるものを中心になる。そして、入場料も当然高くなる。ホール付きのプロデューサー・芸術監督を配置し、入場料も安く設定し、市民の中に文化と芸術を積極的に広げて行くべき」と強く訴えました。(2012.10.29)

=小形香織議員

新しい中央体育館の建設にあたって…2点の要望

札幌市は「1区1体育館・1温水プール」とする一方、中央区には市直営の温水プールはなく、民間スポーツ施設サンシャインを中央区民のプールだと説明していますが、サンシャインの利用料金は、市直営のプールより、大人120円、高校生220円、高齢者で360円も割高になっています。

小形議員はこの問題で「利用する中央区民に他の区民より多くの利用料を負担させているのは問題だ。子どもの場合、料金は同じく無料だが、利用時間や曜日に制限がある。中央区民が長く望んでいる、市直営の温水プールを是非設置すべき」と**高橋スポーツ部長**に強く求めました。

中央体育館構想(パンフレット)には「中島体育センターが担ってきた区民利用の機能統合にいても検討する」と書かれており、「中央体育館ができれば中島体育センターは不要」という考えのようです。

⇒裏面につづく

小形議員は「年間10万人近い市民が利用する中島体育センターは指導者育成に特徴があり、中央区民の利用も53.5%と高い。2010年の事業仕分けでも124/125人が廃止や見直しに反対している。新しい中央体育館ができれば中島体育センターの役割は終了・廃止と考えるべきでない」と**高橋スポーツ部長**に主張しました。(2012.10.29)

= 井上ひさ子議員

深刻化する児童虐待

不足する児童福祉司は増員すべき！

札幌市における児童虐待相談受付処理件数は、2011年度437件。虐待の背景には、親の不和、経済的な問題、子育ての不安、病気、孤立など様々であり、最近の傾向としては、実母、実父によるネグレクトが多くなってきており、児童福祉司の更なる増員が求められています。

井上議員は「虐待を受けた子どもたちは大変な困難を抱えたまま、圧倒的に在宅指導になる。虐待も深刻化し、地区を担当する児童福祉司の役割は重要性を増しているが、十分時間がかけられない、初期対応に追われ、その後手が回らないなど、児童福祉司は不足しており、増員すべきと考えるが、どうか」と質しました。

鎌田担当部長は「家庭引き取りになった場合、関係機関と連携して定期的な通所指導とか家庭訪問などを行い、再発防止のための助言・指導を行なっている。児童福祉司の増員については、この5年間で6名、その他児童心理司など5名、全体で11名増員したところだ。対応の困難な相談が多いことから、引き続き関係部局と協議しながら検討していきたい」と答弁しました。

井上議員は「虐待する7割が母親。子育てで孤立している家庭を解消していくためには児童相談所だけの問題ではない。地域のいろいろな力も借りながら、連携して子どもの命、人権を守っていく行くべき」と強く求めました。(2012.10.29)